

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 現地情報（番外編）
 - ① ブログで振り返る平成29年シーズン
 - ② 移動尾瀬自然教室
 - ③ 冬期調査
- 06 平成30年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 07 尾瀬認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬
安全確実に目的地までご案内～コミュニケーションを大切に～
- 08 TOPICS
- 11 携帯トイレに関する実態調査
平成29年度尾瀬保護財団の主な活動
- 12 尾瀬ボランティア情報
- 13 平成30年度事業計画
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2018.4 vol.36
(公財)尾瀬保護財団



尾瀬沼畔での自然観察会の様子
撮影日：平成29年5月28日

【番外編】①

「ブログで振り返る 平成29年シーズン」

早いもので、平成30年シーズンがすぐそこまでやって来ています。次のシーズンはどんな尾瀬が見られるのか、ワクワクしている方も多いのではないのでしょうか。

平成30年シーズンを迎える前に、平成29年シーズンを振り返ります。「へえ、そうだったんだ」「懐かしい！」と思っただけだと嬉しいですよ。

5月15日

「今年度もよろしくお願いします！」

～山の鼻ビジターセンターより～
皆さん、お待たせ致しました。本日、山の鼻ビジターセンターが開所式を迎え、いよいよビジターセンターの尾瀬シーズンが始まります。今年は何年より積雪が多く残った状態でしたが、尾瀬ボランティアの方によるハーモニカ演奏と草笛演奏が披露され、和やかな雰囲気の中での開所式となりました。



5月20日（本日開所しました）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

本日、尾瀬沼ビジターセンターが開所となりました。昨日からすばらしい快晴が続いています。燧ヶ岳、尾瀬沼が朝日に照らされてとてもきれいです。今年は雪が多くて、まだ木道はほとんど出ていません。踏み抜き、転倒、道迷い等に十分注意してください。

6月2日（「べんま一番」取材）

～山の鼻ビジターセンターより～

また、群馬テレビで放送中の群馬県広報番組「ぐんま一番」の取材協力を行いました。人気お笑いコンビの「タイムマシーン3号」らが出演する番組で、尾瀬を巡る上での注意点やビジターセンターの展示について話をしました。



6月18日

（至仏山東面登山道の柵立て）

～山の鼻ビジターセンターより～
至仏山東面登山道の柵立て作業をしました。また、山ノ鼻地区で二ホンザルが目撃されました。山ノ鼻での目撃はとても珍しいことです。どこから迷い込んだ



のでしょつか。野生のサルを見かけても近付かないようにお願いします。

6月25日（尾瀬ボランティア講座）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

みなさんは「尾瀬ボランティア」の存在を知っているでしょうか？尾瀬の貴重な自然を将来へと引き継いでいくために、入山口でのマナーや自然情報提供などの啓発活動、美化活動や尾瀬の大切さを伝える活動をすすめる人たちがいます。登録に必要な年1回の講座を実施しました。



7月7日（ワタスゲが見ごろ）

～山の鼻ビジターセンターより～

今年にはワタスゲの当たり年。尾瀬ヶ原では、至るところで白い穂が見られます。白い綿毛が青い空によく映えています。ニッコウキスゲも咲き始めました。



7月26日（突然の出会い）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

尾瀬で人気者の「ヤマネ」が白昼堂々、ビジターセンター前に現れました。一目見ようとみなさん大賑わい。夜行性で日中はあまり見られることがないヤマネですが、眠たそうな顔をしながらゆっくりと階段の上を歩いています。



8月3日

（職員が語る尾瀬のあれこれのご案内）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

尾瀬沼ビジターセンターでは、「職員が語る尾瀬のあれこれ」と題し、各職員が興味のあるテーマについて調べ夜のスライドショーを開催しました。平成29年シーズンは、①尾瀬の音風景②尾瀬に住む野鳥③ビジターセンター職員の暮らし④この木なんの木？⑤檜枝岐村と尾瀬沼⑥尾瀬の自然はなぜ残ってきたのかの計6テーマで開催しました。

職員が語る尾瀬のあれこれ
尾瀬の魅力を職員がテーマを定めてご紹介させていただきます！(45分程度)

参加費無料
予約不要

開催日時：8月3日(金) 19時～20時30分
開催場所：尾瀬沼ビジターセンター

申込先：尾瀬沼ビジターセンター 電話：0273-32-1111

お問い合わせ：0273-32-1111

※雨天時は中止となります。

※申込は先着順です。

※申込は先着順です。

※申込は先着順です。

※申込は先着順です。

8月29日

ツキノワグマにご注意ください

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

釜ツ堀湿原は木道の周りの植物の背丈が高いため、ツキノワグマとの遭遇を避けるために刈り払いが行われています。例年、山ノ鼻〜鳩待峠間の目撃は多いのですが、平成29年シーズンは尾瀬沼側も多かったです。

9月3日

あの人に学ぶ尾瀬〜歩荷さんの回

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

「あの人に学ぶ尾瀬」というイベントを行いました。特別ゲストをお呼びし、皆さまに改めて尾瀬の魅力を再発見してもらおう！という趣旨です。9月2日は、歩荷さんを講師としてお呼びしてお話を伺いました。なんと重い時だと120kg程の荷物を背負うこともあるそうです。次回9月9日は、地域おこし協力隊の方をお呼びして、檜枝岐村から見た尾瀬の魅力や村との関わりをご紹介します。紹介いただきま



9月4日

尾瀬国立公園10周年記念だるま

〜山の鼻ビジターセンターより〜

8月30日に開かれた尾瀬国立公園10周年記念式典で披露された記念だるまが、

山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンターに展示されました。訪れた利用者に「尾瀬の未来への願い」を書き込んでいただきました。



9月9日(オオハングンソウ駆除)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

9月7日に小沢平で特定外来生物に指定されているオオハングンソウの駆除作業を行いました。明治中期に観賞用として導入されましたが、繁殖力が強く日本各地に広まりました。尾瀬周辺でも生育が確認されており、中でも小沢平は広範囲に広がっています。

9月18日

台風通過後の山ノ鼻地区

〜山の鼻ビジターセンターより〜

台風18号の影響で朝からお昼頃まで停電となりました。停電中の公衆トイレでは水が流れず、多くの方にバケツの水で流していただきました。

10月5日(初冠雪)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日、至仏山と燧ヶ岳の初冠雪が見られました。

10月7日(葉っぱウィーク)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

「葉っぱウィーク」と題し、一週間にわたり葉っぱをテーマにイベントを行いました。葉っぱをこよなく愛する職員による葉っぱ尽くしのイベントです。オリジナル手ぬぐい作り体験や、葉っぱを好きになるスライドショーなど、いつもは脇役の葉っぱが主役の一週間でした。



10月22日(秋の特別授業)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

10月22日は今シーズンの集大成「秋の特別授業」を実施しました。初日は8月に実施した「職員の語る尾瀬のあれこれ」全6回を一日かけて行いました。台風接近に伴い、非常に寒い一日でしたが、6回全てを制覇された方もいました。夜は星空観望会、2日目の朝には自然観察会を実施し、職員の個性の光る週末になりました。



10月23日(台風21号の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

台風21号は尾瀬にも爪痕を残しました。

た。尾瀬沼側では、増水して、途中の橋が冠水しそうなくらい水かさが増していました。一方、尾瀬ヶ原では、下ノ大堀川が増水し、木道工事の迂回路の一部が流されました。一時尾瀬ヶ原が通行止めになるほど水が出ました。



大江湿原の大江川が

ブログを見ていただいた皆様、ビジターセンターに立ち寄っていただいた皆様、半年間ありがとうございました。また尾瀬でお会いするのを楽しみにしております。山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンター 職員一同



10月31日(平成29年シーズン終了)〜尾瀬沼ビジターセンター〜



10月29日(平成29年シーズン終了)〜山の鼻ビジターセンター〜

移動尾瀨自然教室

尾瀨保護財団では群馬県から委託を受けて、「移動尾瀨自然教室」を実施しています。

移動尾瀨自然教室は、子どもたちの自然や環境に対する意識を高めることを目的に、ビクターセンターで働く職員が、群馬県内の小中学校にスライドやぬいぐるみ等の教材を持参して実施する出前授業です。

尾瀨は冬の間、深い雪に閉ざされ、道路閉鎖に伴い、ビクターセンターも閉館しています。そのシーズンを利用して出前授業を行っています。

群馬県に住んでいても実際に尾瀨がどこにあるのか、どんなところかを知らない子どもたちもいます。

そのため、最初に「尾瀨ってどこにあるの？」という話から始めています。尾瀨の広さ、標高などをクイズ形式にして、子どもたちに楽しみながら学ん

▼ 移動尾瀨自然教室の様子



でもらいます。

尾瀨にある山の話では、燧ヶ岳の写真を見せても

▼ 尾瀨のつながりを考えるグループワークの様子



反応がなかった子どもたちですが、「『上毛かるた』の中にこの山見たことないかな」と言っと、勘のいい子どもが「あつ、仙境尾瀨沼」と呼びます。そこで絵札を見せると、

「あ〜、見たことある〜」

「知ってる〜」

と子どもたちとの距離がぐっと縮まります。

尾瀨の気温の話では、夏のビクターセンターの写真の次に、雪に埋まったビクターセンターの写真を見せると、「おーおー」「えーっ」「中に入れないじゃない。どうやって中に入るの。」と大きな驚きの反応があります。

尾瀨の生きものについての話では、子どもたちが興味をひくように「この中に何かの動物が隠れているよ。わかるかな。」と問いかけると、スクリーンをじっと見て、すぐに「あそこーあそこー」と元氣

に指さしてくれます。また、ヤマネとオコジヨの動画を観てもうごと、「かわい〜」「うわ〜、すごい速い」「欲しい〜」などの大きな歓声が起こります。他に、尾瀨の動物たちのぬいぐるみや毛皮を持参し、オコジヨの夏毛と冬毛の違いや毛皮の肌触りなどを実際に触って楽しく学んでもらいます。

後半は、尾瀨のつながりを考えてもらうワークと尾瀨の自然を守るという話をします。これまでどのようにして尾瀨の自然を守ってきたのかを様々な写真でやさしく解説します。一人でも多くの子どもたちが尾瀨に興味を持ってもらい、さらに自然を守るという考えを持っていただければ、うれしいです。

授業の最後に、子どもたちに「尾瀨に行ってみたい人いますか」と問いかけると全員が「はい」と元氣よく手を上げてくれます。出前授業をやって良かったと思う瞬間です。

(阪路善彦)

▼ 毛皮などを触る子どもたち



冬期調査

尾瀬保護財団では、尾瀬山の鼻ビジターセンターの管理を群馬県から受託しており、私たちは尾瀬のシーズン終了時に建物の雪囲い等を施してから下山します。そして尾瀬は半年間の長い冬に入ります。冬はとても雪の多い尾瀬ですが、冬の間は2回ほど特別に許可を得て入山し、建物や橋梁などの点検をします。

〈第1回〉

1回目の冬期調査を11月16日に実施しましたので、その様子をお伝えしたいと思います。

戸倉のゲートから自動車で鳩待峠に向かうと、途中から雪道となり鳩待峠では30cmくらいの積雪になっていました。ちょっと迷いましたが予定通り山ノ鼻へ向けて出発しました。雪で隠れた木道を踏み外さないように、滑って転倒しないように慎重に歩いて、尾瀬山の鼻ビジターセンターに着きました。尾瀬山の鼻ビジターセンター、山ノ

▼ 11月、早くも雪で白くなった尾瀬



鼻公衆トイレ等の建物を中心に異常がないかどうかを点検し、翌日に下山しました。

〈第2回〉

第2回冬期調査は、3月12日から15日まで実施しました。この時期は自動車で鳩待峠へ入ることができないので、他の尾瀬関係者とともにヘリコプターで入山します。3月12日は、朝から風が強くなり、なかへリコプターが飛び立つことができません。私たちは風が弱くなるのをじっと待ちました。午前11時前になって、やっと1回目の人たちを乗せてヘリコプターが飛んでいきました。12時半くらいに私たちもヘリコプターに乗って尾瀬に入りました。ガタガタと絶え間なく揺れるヘリコプターの乗り心地ですが、尾瀬ヶ原を空から眺めることができる特典があります。山ノ鼻で作業をするメンバー4名が先にヘリコプターを降り、私たち2名が竜宮に降りた時は、既に午後1時近くになっていました。竜宮公衆トイレの点検を終えて、途中下ノ大堀川橋の除雪作業等

をしながら、スキーで山ノ鼻に向かいました。尾瀬ヶ原をスキーで歩くことができます。はとも幸せかもしれませんが、竜宮から山ノ鼻までは距離が長く、スキーで歩くのも楽ではありません。

▼ 尾瀬山の鼻ビジターセンター（裏側から）



ません。後半はだんだん足が痛くなってきました。でも時々立ち止まって見る雪の尾瀬ヶ原の景色はともきれいでした。どうにか無事に、夕方までに尾瀬山の鼻ビジターセンターに到着しました。

尾瀬山の鼻ビジターセンター、山ノ鼻公衆トイレの除雪等を中心に作業を行いました。が、昨年比で積雪量は少なかつたものの、雪を掘っていくと下層がスコップでも割ることができないほどに厚い氷になっているところも多く疲れました。雪といってもかなり締まった雪なので、作業を続けていくとだんだんと腰や腕などが痛くなってきました。つらい肉体労働ですが、仕事が終わった後、みんなで囲む夕食とビールはとても美味しかったです。

▼ 除雪作業の様子（山の鼻ビジターセンター）



15日朝、尾瀬の雪景色に後る髪を引かれる想いもありましたが、朝食を終え荷物をまとめて、戸締まりをして下山しました。山ノ鼻から鳩待峠を越えて、戸倉まで長い長い雪道です。前日までの作業による疲れも重なり、戸倉までの道のりはとても長く感じました。

天候にも恵まれ、素晴らしい冬の尾瀬の景色に感動の4日間でした。

（小川浩司、阪路善彦）



平成30年シーズンの

尾瀬についての

お知らせ

交通規制

○鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。
鳩待峠では116日間マイカー及び二輪車（オートバイなど）の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両（ただし、許可車及びシャトルバス等を除く）が規制されます（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとおりです。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日（月）～6月30日（土）

※雪の状況に応じて、期間が変更になる場合があります。

その他にも、様々なルールがありますので、注意して利用してください（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

尾瀬山開き

開催日…5月24日（木）
開催場所…福島県檜枝岐村

※この山開きはセレモニーであり、周辺道路の冬期閉鎖が解除されるのは4月下旬頃です。春先は豊富に残雪が残りますので、十分な装備を整えて入山してください。

ビジターセンター開所

○山の鼻ビジターセンター

5月16日（水）【予定】

○尾瀬沼ビジターセンター

5月19日（土）【予定】

財団ホームページ

1 ライブカメラ

尾瀬の様子をライブカメラで見ることができます。尾瀬保護財団ホームページの下部にリンクがありますので、ぜひご覧ください。

2 尾瀬だより

現地から最新の尾瀬の様子を毎日お届けしています。自然の様子や気温など、尾瀬に行く際にぜひ活用ください。

3 尾瀬情報

現地職員が巡回で収集した情報を「尾瀬情報」にまとめて発信しています。地域ごとの確認や過去の様子を調べるのにも役立ちます。

尾瀬ハイキングガイド

尾瀬に初めて行かれる方や、何を準備したらよいかわからないといった方のために、「尾瀬ハイキングガイド」をご活用ください。尾瀬のマナーや地図、また装備品について掲載しています。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。なお、英語版・韓国版・中国語版もあります。

尾瀬認定ガイド

○ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドをご活用ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動を伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアーのガイドに是非ご利用ください。

【登録者数】

- ・尾瀬自然ガイド 231名
- ・尾瀬登山ガイド 68名

（平成30年2月末現在）

その33 安全確実に目的地までご案内～コミュニケーションを大切に～ 〈角屋暢洋(尾瀬自然ガイド)〉

(奥只見郷ネイチャーガイド Tel 025-792-7300 URL http://www.iine-uonuma.jp/play/taiken/nature_guide.html)

Q 尾瀬歩きが何倍も楽しくなるような尾瀬の楽しみ方を教えてください。

A 尾瀬にお越しになる方にぜひおすすめしたいのが、ビジターセンターをはじめ、山小屋の皆さんといった、いろいろな形で尾瀬に関わる方々とのコミュニケーションです。みなさん気さくな方ばかりで、尾瀬を愛してやまない方たちばかりです。普段知らないような植物の情報や、休憩中に食べたくなる美味しいおやつのお話など。日頃から尾瀬にいるからこそ知る旬をみなさんお持ちです。

みなさん方の個性や価値観によって、より一層尾瀬歩きが楽しくなりますよ。



Q オススメする尾瀬スポットを教えてください。

A 私がぜひおすすめしたい場所が、10月初旬～中旬の尾瀬沼周辺(北岸)です。尾瀬沼ビジターセンターから歩きはじめ、大江湿原・浅湖湿原・大入州の樹林帯・そして沼尻の池塘と、片道約1時



▲ 沼尻の池塘～色づいたヒツジグサが映える～

間の行程の中で様々な景色をたくさんになることができず。特に晴れた日は、尾瀬沼の輝きと紅葉のコントラストがとても美しくご覧いただけます。人も少なく、かといって不安になるほど人が少ないわけではないため、快適に過ごせるのではないのでしょうか。



▲ 秋の静かな大江湿原

Q 尾瀬に持っていくと便利な道具はありますか？

A ジッパー付きのビニール袋はとても重宝します。濡れたくないもの、濡れてしまったものを入れたら、封をする前に空気を抜くことで簡易的な圧縮袋として使うことができます。コストも控えめで、袋自体しっかりしたものが多いため、ザックの中で暴れても「穴があいて漏れてしまった」ということも少なく、非常におすすめです。

また、スマートフォンにクリップできるマクロレンズもこれからおすすめです。コンパクトな上、昨年から山小屋などに整備されているWi-Fi環境を活用して、休憩中にご家族やお友達にマクロな尾瀬をタイムリーにお送りすることができますようになるのかもしれない。

Q 尾瀬をガイドしていて、印象に残る思い出のエピソードを聞かせて下さい？

A ガイド中、いろいろな情報をお伝えしてゆく中で、とてもフレンドリーなお客様みなさんと植物のお話で過ごしたことでしょ。うか。ミズバショウの群生を眺めながら、それぞれ違う大きさや形の違いを、パター全員でいろいろな視点から仮説を立てて、いろいろ派生するお話が非常に楽しかったです。その分、行程時間が押し気味になりましたが(笑)、距離感が近くなった分「みんなでゴールまでがんばろう！」って雰囲気になり、到着地点では全員大きな達成感を感じることができました。



Q 今後の抱負・目標・意気込みを聞かせて下さい。

A 尾瀬は山岳地帯であることから、ガイドとしてお客様を安全確実に目的地までご案内すること。この絶対目標を柱にして、「尾瀬に来てよかった」「この人がガイドで良かった」と思えるように、お客様とのコミュニケーションを大切にして行きたいと考えております。

お越しになられた方々の求めていることをできる限り理解し、尾瀬の素晴らしさを更に深めていけるように心がけていきます。

トピックス TOPICS

○第22回NHK「わたしの尾瀬」写真展
 (高崎展・前橋展)を開催しました
 (今後、東京・埼玉・新潟・福島を巡回予定)

平成29年12月に高崎シティギャラリー、30年1月に群馬県庁において、「わたしの尾瀬」写真展を開催しました。



▲高崎シティギャラリーの様子

22回目となる「わたしの尾瀬」フォトコンテストには全国から799点の応募があり、厳正な審査により選ばれた50点の作品が会場に展示されました。

また、財団の活動を紹介するパネルや片品村俳句大会の入選作品、檜枝岐村の尾瀬書道展の入選作品も展示され、ご来場いただいた多くの方々にご覧いただきました。

会場には、「尾瀬には何度も通っているんですよ、という人や、「昔は良く尾瀬に行っていたんですが、諸事情でなかなか行けなくて…」という人等が、様々な思いで尾瀬の四季折々の表情を堪能していらっしゃいます。

12月15日(金)に高崎会場で行われた表彰式・交流会には、入賞者の皆様が多数参加されました。表彰式では審査員である新井幸人さんと今井隆一さんによる作品解説のほか、尾瀬保護財団職員によるスライドショー「尾瀬の楽しみかた」が行われ、入賞者の皆様が熱心に聞き入っていました。



▲表彰式の様子

交流会では、入賞者の皆様が自らの作品の解説を行い、写真に込めた熱い思いを語っていただきました。

た。大いに盛り上がった交流会の時間は、あっという間に過ぎてしまいました。

今後の写真展の巡回予定については、日程および会場が決定次第、当財団ホームページ並びにNHK前橋放送局ホームページにてご案内しますので、是非ご来場いただき尾瀬の素晴らしい風景を堪能していただければと思います。

【問い合わせ先】

NHK「わたしの尾瀬」実行委員会

(担当:間嶋)

◎TEL 027・220・4431

◎FAX 027・220・4421



▲交流会の様子

○ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017に参加しました

平成30年1月13日(土)に、群馬県立県立自然市博物館で開催された報告会に参加しました。この報告会は、群馬の自然の中で活動をしている様々な団体、教育研究機関などが一堂に会して報告を行い、意見交換を行う場です。今年も基調講演や口頭発表のほか、56タイトルものポスター発表が行われました。市民団体の活動報告から大学の研究者による本格的な研究報告まで様々な発表がそろいます。中でも、高校生の発表には若々しいワーが感じられます。県立大泉高校の「渡良瀬遊水池における保全活動」では、除去された外来植物のセイタカアワダチソウ



▲ 発表者、来場者できぎわう報告会場

を使って簾が作成されるなど、面白いアイデアが見られました。当財団でも、今回は「尾瀬における外来植物みずぎわ対策」というタイトルで発表を行うなど、外来植物対策を進めています。除去した外来植物の有効利用の可能性もあると、大変勉強になりました。尾瀬での外来植物対策という地道な作業はまだ始まったばかりです。長く続く作業の中で、ところどころ工夫をこらして変化がつけられるといいですね。

私たちのポスター発表を見に来てくださった方々には、各地で広がっているオオハシゴソウのことをご存じの方が多く、まだ尾瀬の核心部に入っていないませんが、登山口周辺で広がっていることなどを紹介すると、「対策を是非がんばってください」と励ましの言葉をかけてくださいました。尾瀬に限らず、群馬の自然の保全について、熱心に取り組まれる方がたくさんおられることは、大変強いことです。

○尾瀬ガイド協会「理事会」および「認定審査委員会」が開催されました

平成30年1月31日(水)、埼玉県さいたま市(会場：埼玉会館)にて尾瀬ガイド協会の平成29年度第2回「理事会」および「認定審査委員会」が開催されました。

今回は、昨年夏から秋にかけて行われた平成29年度尾瀬自然ガイド検定及び同登山ガイド検定の結果について、まず午前中の認定審査委員会で審査が行われました。その審査結果に基づき、午後の理事会で検定合格者を認定ガイドとして認定することが承認され、22名の自然ガイド、3名の登山ガイドが新たに誕生しました。

今回認定された方々は平成30年シーズンから、晴れて尾瀬認定ガイドとしての活動ができることとなります。

その他、当日は平成30年度のガイド検定試験の方針や尾瀬ガイド協会規約等について、活発な議論が行われました。

尾瀬認定ガイド制度もスタートから10年以上が経過し、これまでに350名以上の認定ガイド(自然ガイド)が誕生しています。尾瀬ガイド協会にとつて、今後はガイドのスキルアップを図るとともに、ガイド制度の認知度や認定ガイドの活躍の場を広げていくこともこれまで以上に重要となつてきます。

○知床・尾瀬合同セミナーを開催!

平成30年1月29日(月)に(一社)日本旅行業協会主催のセミナーに参加させていただきました。題して、「国立公園を満喫するツアー造成に向けて」あらためて国立公園「知床」、「尾瀬」のはるかな魅力を学ぶ」です。

環境省からは、現在進めている「国立公園満喫プロジェクト」についての説明がありました。その中で印象的だったのは、1931年(昭和6年)に国立公園法(当時)が提案された理由で以下の一文でした。読んでみると、現在日本の国立公園が目指している訪日外国人旅行者数及び旅行消費額の増加と同じような考え方が当初からあったということです。

また知床の松田氏からは、世界から見た日本の自然の魅力、知床の魅力について話がありました。

知床では、貴重な野生動物や流氷を魅力として、盛んに

我が国天与ノ大風景ヲ保護開発シ
一般ノ利用ニ供スルハ国民ノ保健
休養上緊要ナル時務ニシテ且外客
誘致ニ資スル所アリト認

エコツアーリズムが行われているということでした。尾瀬にも様々な動物が生息していますが、なかなか見られることが少ないため、知床の大きな強みだと感じました。

最後に尾瀬についてですが、今回は尾瀬ガイド協会専務理事の安類智仁氏から尾瀬の魅力の話、私たちがツアー造成にあたっての情報提供をしました。

知床と尾瀬、はるかな魅力をどれくらい皆様にお伝えできたかわかりませんが、尾瀬の魅力を多くの人に感じてもらうとともに、他の地域の取組を学べる良い機会となりました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



▲ 旅行会社などへのガイダンス風景

○ 尾瀬に関する情報交換会を開催しました

平成30年2月13日(火) 午後6時から東京都千代田区隼町にある、ホテルグランドアーク半蔵門で、「尾瀬に関する情報交換会」を開催しました。



▲ 各参加団体によるプレゼンテーション

この情報交換会は、多くの人に尾瀬の魅力を知っていただくため、尾瀬国立公園を有する自治体や関係機関が一堂に会し、尾瀬の魅力をPRする場として、また情報交換を行う場として開催するもので、昨年度に引き続き2回目の開催です。出版社、旅行エージェント、アウトドア関係企業などをご招待し、主催者と合わせて約190人が参加しました。

情報交換会では、地元4市町村長(檜枝岐村、南会津町、魚沼市、片品村)による歓迎あいさつと、地元4市町村のほか、尾瀬ガイド協会、尾瀬山小屋組合、コンサベーション・アライアンス・ジャパン

の代表者が尾瀬の魅力やそれぞれの活動をプレゼンテーションしました。その後、歓談の時間を設け、情報交換を行いました。

また、会場には、主催者側各参加団体(地元4市町村、尾瀬ガイド協会、東京電力H.D.株、コンサベーション・アライアンス・ジャパン、尾瀬保護財団)のブースを設置して、地元特産品の振る舞いや、パンフレットの配布、映像放映、活動の紹介などを行い、尾瀬の魅力を発信しました。

尾瀬国立公園は、日光国立公園から分離独立して昨年8月で10周年を迎え、新たなスタートを切りました。2時間ほどの会でしたが、この「尾瀬に関する情報交換会」を契機にして、参加していただいた招待者から尾瀬の魅力が発信され、より多くの人に尾瀬のことを知っていただき、また尾瀬の魅力を再認識していただき、尾瀬の保護と適正な利用につなげていければと思います。

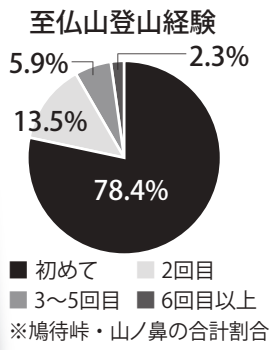


▲ 歓談・情報交換

○携帯トイレの所持率を調査しました！

平成29年9月2日(土)～3日(日)の2日間、鳩待峠登山口と山ノ鼻登山口でアンケート調査を実施しました。合計で680人(78.2%)の登山者から回答を得た結果、携帯トイレの所持率は「80人(11.8%)」でした。

また、登山口で使用後の携帯トイレを有償回収していた場合、いくらであれば負担することが可能か聞いたところ、多くの人が100円という回答で、公衆トイレの協力金程度という結果となりました。参考に、至仏山の登山経験を調査した結果を掲載します。



おまけ

至仏山で最初に発見された「オゼソウ」
1929年7月6日原寛博士が命名してから来年90年を迎える。



ご協力いただいた皆様、
ありがとうございました！

○平成29年度尾瀬保護財団の主な活動

4月13日	至仏山残雪期調査実施	4月27日	至仏山東面登山道整備(岩場ステップ切り)実施
22・23日	アースデイ東京2017に出展	28日	至仏山新工法登山道の確認及び設置に向けた現地視察(鳩待峠)の実施
25日	尾瀬カイド協定審査委員会・理事会開催	10月7・8日	至仏山携帯トイレ実態調査実施
29日	2017新宿御苑みどりフェスタに出展	13日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施
5月2～6日	ツキノワグマ定点観測調査実施	16日	ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施
11日	尾瀬総合学術調査推進協議会総会開催	21日	至仏山東面登山道整備(柵倒し)実施
15日	山の鼻ビジターセンター開所	27日	至仏山新工法登山道の試験設置場所の選定
20日	尾瀬沼ビジターセンター開所	30日	山の鼻ビジターセンター閉所
6月2・9日	外来植物(ハルザキヤマガラシ)駆除作業実施	31日	尾瀬沼ビジターセンター閉所
3日	ごみ持ち帰り運動実施	11月2日	至仏山新工法登山道試験設置開始
5日	第4次尾瀬総合学術調査キックオフイベント開催	16・17日	平成29年度第1回冬期調査実施
9日	尾瀬保護財団第16回理事会開催	21日	第4次尾瀬総合学術調査推進会議開催
13・14日	外来植物分布調査実施	12月15～20日	NHK「わたしの尾瀬」写真展(高崎展)及び表彰式開催
18日	至仏山東面登山道整備(柵立て)実施	18日	尾瀬国立公園適正利用の推進に関する小委員会に出席
19・20日	山の集い in 東京2017に出展	1月10日	第4次尾瀬総合学術調査団平成29年度報告会開催
22日	第4次尾瀬総合学術調査団会議開催	10日	第4次尾瀬総合学術調査団会議開催
24・25日	尾瀬ボランティア講座開催	12～17日	NHK「わたしの尾瀬」写真展(前橋展)開催
7月4日	尾瀬保護財団第8回評議員会開催	13日	群馬県立自然史博物館特別展『ぐんまの自然の「いま」を伝える』報告会に講師派遣
7日	林野庁による大江湿原シカ柵設置作業に参加	29日	尾瀬カイド入開催
10日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	31日	尾瀬カイド協定審査委員会・理事会開催
28日	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策連絡会議開催	2月10日	尾瀬自然解説カイド連絡会議開催
28日	山の日「21世紀の森祭り」に出展	10日	尾瀬ボランティア総会開催
8月11日	外来植物分布調査実施	13日	尾瀬に関する情報交換会開催
23日	尾瀬檜枝岐マウンテンフェスに出展	10日	平成29年度第2回冬期調査実施
26・27日	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策連絡会議開催	22日	尾瀬国立公園シカ対策協議会に出席
30日	尾瀬国立公園10周年記念式典開催	22日	尾瀬国立公園協議会に出席
30日	尾瀬サミット2017開催	22日	尾瀬国立公園10周年記念事業実行委員会開催
9月2・7日	外来植物(オオハンゴンソウ)駆除作業実施	3月12～16日	尾瀬賞検討委員会開催
9日	インタープリテーション研修開催	23日	尾瀬保護財団第19回理事会開催
11日	台湾等からの留学生モニターツアー実施	23日	尾瀬総合学術調査推進協議会総会開催
11～13日	ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施	28日	

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介いたします。

○尾瀬ボランティア総会を開催しました

平成30年2月10日(土)群馬県前橋市(会場: 昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館))にて、尾瀬ボランティア総会を開催しました。昨シーズンの振り返りと今シーズンに向けた意見交換などを行いました。

(一) 講演 演題: 尾瀬の植物

その全貌と変化をさぐる



▲ 大森先生の講演の様子

尾瀬ボランティアの活動では、入山者から尾瀬の植物について質問されることが多くありますが、近年は少雪、多雪、また集中豪雨等の複雑な気候変動や、二ホンシカを始めとする野生動物の影響により、湿原生態系が大きく変わってきています。昨年度始まった第4次尾瀬総合学術調査では、尾瀬の植物の現状を把握することにも

に、気候変動と二ホンシカが尾瀬の植物にどのような影響を与えているか調査されています。そこでご自身も総合学術調査団の一員である群馬県立自然史博物館の学芸員大森威宏先生に、尾瀬の植物についてご講義いただきました。

(二) 平成29年度「活動報告」

事務局から活動状況を説明。基本活動となる入山口啓発活動の参加状況や、新規活動メニューとなった木道栈木(さんぎ)打ち作業(※1)や外来植物除去作業(※2)等について報告しました。次に、実際に活動したボランティアさんからの報告。今回は、辰野英暉さんに沼山峠における入山口啓発活動について、原谷清司さんに首都圏でできる活動としてNHK「わたしの尾瀬」写真展(渋谷展・川口展)について、皆川繁子さんに外来植物除去作業について、それぞれ報告いただきました。

(※1) 木道の滑りやすい箇所には栈木を打つことで、転倒事故を防止します。

(※2) 車道沿いに生育する特定外来植物(オオハシゴソウ、ハルザキヤマガラシ)を除去することで、尾瀬国立公園中心部への侵入を予防します。

(三) 平成30年度「活動計画」(案)

例年実施される活動メニューについて、実施時期等の確認を行いました。また、新規活動メニューとして大江湿原シカ柵設置・撤去(予定)(※3)についてお知らせしました。

(※3) ニッコウキスゲに代表される大江湿原の植生を守るため、林野庁が実施するシカ柵の設置・撤去作業に協力します。

(四) 班別討議

5〜6人の班に分かれ、「尾瀬ボランティアの楽しみ方」について、話し合いながら交流を深めました。「活



▲ 班別討議の様子

動に赴く過程(道のり、温泉、食べ物)も楽しんでいける」という声や、「活動は無理をせずに自然体でやる」といった意見がありました。参加者からは「大変楽しい雰囲気、来年も参加したい!」という嬉しい声も聞こえました。



▲ 集合写真

○尾瀬ボランティアを募集しています

財団では、尾瀬の貴重な自然を国民の宝として大切に保護し、将来へと引き継いでいくために、尾瀬地区の利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動、施設の管理運営が重要な役割を果たすという考えに賛同する人を「尾瀬ボランティア」として募集しています。

※応募にあたっての御注意

→ 研修・登録が必要です

活動を始める前に、尾瀬ボランティアへの登録が必要です。登録のためには、所定の研修を修了する必要があります。研修は通常4月から開始する通信研修と6月〜7月頃に行う現地研修があります。詳しくはお問合せ下さい。

【問い合わせ先】

公益財団法人尾瀬保護財団

TEL 027・2220・4431

FAX 027・2220・4421

尾瀬保護財団 平成30年度事業計画

尾瀬保護財団の平成30年度事業計画が、本年3月23日に開催された第19回理事会で決定されました。主な事業計画は次のとおりです。

1 利用者啓発事業

(1) 入山者啓発事業

- ① 入山口啓発：入山マナーの啓発、利用案内、ごみの持ち帰り運動等を実施する。
- ② 尾瀬ボランティアの活動支援
ア ボランティア活動の調整や研修会等を開催する。
イ 新たな活動を追加し活動の幅を広げること
で、ボランティア活動の活性化を図る。
- ③ ガイド利用の普及・促進
ア ガイド利用を通じて、尾瀬の自然環境の保全と適正利用を図るため、尾瀬ガイド協会の運営を受託し、連携・支援する。
イ ガイド利用の魅力、有用性等を利用者に啓発し、普及を図るため、尾瀬自然解説ガイド（尾瀬ボランティアを母体とする）によるガイド活動を実施する。

(2) 自然解説事業

- ① 自然解説事業：自然解説活動を通じて、尾瀬の貴重な自然についての認識を深め、適正利用を促進する。
- ② 環境学習推進事業：「環境学習の場」としての利用促進を図るため、現地情報や学校の利用状況について情報発信を行う。

(3) 研修事業

- ① 指導者の養成：職員の資質向上を図り、指導者として養成するため、各種研修会に派遣する。

- ② 職員研修の実施：新規職員を対象に、財団職員としての心構え、業務内容及び国立六公園制度等の研修を実施する。
- ③ 救急救命研修：現地に勤務する職員に応急手当、AED操作訓練等の救急救命研修を実施する。

(4) 普及啓発事業

- ① 機関誌の発行
- ② 「わたしの尾瀬」フォトコンテスト、写真展等の開催
- ③ 啓発リーフレット等の作成・配布：外国語版「尾瀬国立六公園案内マップ」の改訂増刷を行う。
- ④ ホームページの管理運営：尾瀬の保護と適正利用を推進するとともに、財団の活動を周知するため、尾瀬に関する最新の情報を発信する。
- ⑤ 尾瀬ガイドンスの実施：地元協力の元、尾瀬の現状と適切な利用方法等についての理解を広める普及啓発を行う。
- ⑥ 出張講演
- ⑦ 外国人入山者啓発：来訪する外国人入山者の現状の把握と、マナー啓発を行う。
- ⑧ 尾瀬国立公園のPR：尾瀬国立公園10年記念事業に引き続き、首都圏等で行われる自然環境関係のイベントにブース出展する。

2 環境保全事業

- (1) 植生回復事業：至仏山東面登山道の植生回復及び保全事業を実施する。
- (2) 至仏山保全対策：至仏山保全対策会議を活用し、至仏山保全基本計画に基づいて各種対策を検討し実施するとともに、自然への負荷を抑える新しい登山道について、関係機関と連携して取り組みを進める。
- (3) 尾瀬シカ対策：関係県と連携してシカ対策に取り組む。
- (4) 外来植物対策事業：外来植物の分布状況を把握し、必要に応じて除去活動を行う。

3 施設管理事業

- (1) ビジターセンターの管理運営
- (2) 公衆トイレの維持管理

4 調査研究事業

- (1) 尾瀬総合学術調査推進事業：第4次尾瀬総合学術調査を事務局として支援し、尾瀬の保全・管理に不可欠な科学的情報を整備する。
- (2) 適正利用推進事業：「尾瀬ビジョン」の実現に向けて主体的に取り組む。
- (3) ツキノワグマ対策：「尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会」の運営を行うとともに、出没した際の対策について関係者とともに取り組む。

5 顕彰事業

- (1) 尾瀬賞見直し検討委員会において、平成32年度以降の尾瀬賞について見直しを行う。

6 友の会事業

- (1) 特典の拡充や特別賛助会員のPRを図り、会員増加に努める。

7 寄付金の募集

- (1) 公益財団法人への寄付税制の優遇措置制度を活用し、企業・団体等に対し積極的に寄付を募る。

8 その他

- (1) 尾瀬サミット2018の開催
開催日：9月10日（月）～11日（火）（予定）
開催場所：福島県檜枝岐村
- (2) 拡張地域における活動拠点の整備：昨年度に引き続き檜枝岐村内に臨時の事務所を設置する。
- (3) 評議員会及び理事会の開催
- (4) 受託事業・助成金の活用

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。



◆税の優遇措置等について

尾瀬保護財団へ寄付をすると次のような税の優遇措置が受けられます。

控除対象	内容	必要書類
所得税、法人税	尾瀬保護財団は「公益財団法人（免税団体）」に認定されており、寄付金は税の優遇対象となります。	尾瀬保護財団発行の「寄付領収証」
個人県民税、個人市町村民税	尾瀬保護財団を対象団体として指定した都道府県または市町村にお住まいの個人の方については、県民税または市町村民税の控除対象となります。	尾瀬保護財団発行の「控除対象寄付金受領証明書」、「寄付金税額控除申告書」

※所得税、法人税の詳細については、最寄りの税務署、県民税市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせ下さい。

◆特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。詳細は財団事務局（☎ 027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局（群馬県庁 15 階・☎ 027-220-4431）へご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承下さい。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

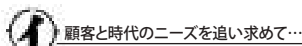
特別協賛寄付者のご紹介

※ 3月12日現在、五十音順、敬称略



アサヒビール(株)群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい!を明日へ!」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度から毎年100万円のご寄付をいただいております。(通算寄付総額 30,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。



糸井商事(株)

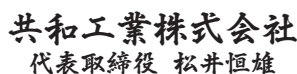
糸井商事株式会社 地元企業として、日本の宝である尾瀬の自然環境保全に役立てて欲しいという趣旨から、100万円のご寄付をいただきました。昨年度に引き続2回目となります。(通算寄付総額 2,000,000円)

寄付者からのメッセージ：糸井商事は昭和21年創業、今年で70周年を迎えました。「顧客と時代のニーズを追い求め続けます。」と「会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で推し進めます。」を経営理念に掲げ、地域にとって存在価値のあり続ける企業を目指しています。社長が球団代表を兼ねている群馬ダイヤモンドベガサスの活動と合わせながら、尾瀬の自然環境保護の応援をさせていただきます。



株式会社エコ計画 環境・食・貢献をテーマに事業を展開している企業として、「豊かで美しい尾瀬の自然を後世にまで伝える」という当財団の趣旨に賛同いただき、社会貢献事業の一環として100万円のご寄付をいただきました。寄付は、今回で2回目となります。(通算寄付総額 2,000,000円)

寄付者からのメッセージ：エコ計画は、1970年創業の総合リサイクル企業で「環境・食・貢献」をテーマに事業を展開。群馬県では、1981年に事業を開始し、古民家を移築した自家源泉を備える2つの直営旅館に加え、高崎市倉淵町には、フォレストック認定取得の社有林(約1,000ha)を保有、森林整備を通じ、自然環境保護に取り組んでいます。尾瀬は、日本の自然保護の原点でもあり、貴財団の趣旨に賛同、寄付をさせていただきます。今後も地域社会との共生、発展に貢献して参ります。



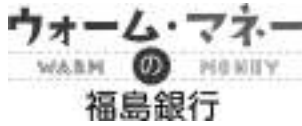
共和工業株式会社(三条市上須頃) 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で9回目となります。(通算寄付総額 1,500,000円)

寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。



株式会社セーブオン 群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 7,808,403円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで永く守り続けるための活動を応援してまいります。



株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成29年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,018万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 47,447,843円) また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、10万円をご寄付いただきました。(募金総額 339,986円)
 寄付者からのメッセージ: 福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

水上高原ホテル200(水上高原リゾート株式会社) 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。また、ホテル内で募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。同社からの寄付は、今回で5回目となります。(通算寄付総額 1,449,292円)
 寄付者からのメッセージ: 環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

株式会社 明治 (株明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、35万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 1,250,000円)
 寄付者からのメッセージ: (株明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させて頂きました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として総額411万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が11回目のご寄付となります。(通算寄付総額 64,484,337円)



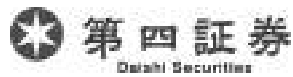
アセットマネジメント One 株式会社 今年度は205万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額32,242,169円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。私たちは投資信託を通じて、尾瀬保護財団に寄付を行っています。



株式会社群馬銀行 今年度は112万円余りをご寄付いただきました。(尾瀬紀行の他、財団設立当初からの寄付をいただいております。通算寄付総額 31,083,780円)

寄付者からのメッセージ: 信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



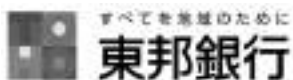
第四証券株式会社 今年度は4万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,768,445円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



株式会社第四銀行 今年度は22万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,415,719円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



株式会社東邦銀行 今年度は72万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 11,276,624円)

寄付者からのメッセージ: 尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取組んで参ります。

協賛寄付者のご紹介

※3月12日現在、五十音順、敬称略

糸井商事株式会社

地元企業として、日本の宝である尾瀬の自然環境保全に役立てて欲しいという趣旨から、10万円のご寄付をいただきました。昨年度に引き続2回目となります。(通算寄付総額 200,000円)

一般財団法人 群馬県警察厚生会

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で7回目となります。(通算寄付総額 700,000円)

群馬トヨペット株式会社

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。環境とお客様とのふれあいを大切に「群馬トヨペット」は、尾瀬の優れた自然環境を保全する活動主旨に賛同し寄付を始めさせていただきました。尾瀬の美しい自然環境を守り続けられるよう支援を継続していく予定です。今回で2回目の寄付となります。(通算寄付総額 600,000円)

株式会社とりせん

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からの寄付は通算で6回目となりました。今後ともご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 1,558,391円)

株式会社二チネン

株式会社二チネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で11回目となります。(通算寄付総額 1,100,000円)

株式会社読売旅行

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、平成26年から29年の3年間、毎年10万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 300,000円)

その他の寄付者のご紹介

※平成29年1月1日~12月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

尾崎喜一、NPO法人尾瀬愛しむ会、小花光雄、群馬県ビルメンテナンス協同組合、公孫会北魚支部、関本昇、大都開発株式会社 割田崑一 ほか 3名の方から御支援をいただきました。

ミズバショウのように

1994年からの尾瀬総合学術調査団に参加して得た調査結果をもとに「尾瀬のミニ観察」を「はるかな尾瀬」6巻1号(2008)から連載して10年になる。短い記事でわずかな情報を提供したにすぎないが、10年を契機にこのスペースを次の企画に引き継ぐことにした。

最後に、皆様が写真のミズバショウのように大きな実を結ぶよう、尾瀬でのボランティア活動を続けられることを願うとともに、ご愛読いただいた御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

第22回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●渋谷展

【開催期間】
平成30年4月3日(火)～15日(日)
午前10時～午後6時
※最終日は午後4時30分まで

【会場】

NHKみんなの広場
ふれあいホール
(東京都渋谷区神南町2-2-1)
(TEL: 03-3485-8034)

●川口展

【開催期間】
平成30年4月24日(火)～5月6日(日)
午前9時30分～午後5時30分

【会場】

SKIPシティ
公開ライブラリーエントランス
(埼玉県川口市上青木3-12-63 NHK川口アーカイブス)
(TEL: 048-268-8790)

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です

8月1日からの加入・更新をご希望の方は6月30日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体 企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

【特典について】

- ※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。
- 友の会会員バッチ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

●●●編集後記●●●

春って、鼻が敏感になります。冬に慣れてきて寒さに耐えられるようになった頃突然にジンチョウゲの香り。あれ？あ、そうか。段々冬も終わりかな。暫くすると、あれ？もう春なのか。とコブシの花。これが合図になってアレ○オンを飲み始めます。いよいよ敏感な私の鼻は、薬も効かなくなり、外を見ると春霞。尾瀬の動物たちは花粉症にはならないのだろうか。と気になり出すともう気持ちは尾瀬にまっしぐらの今日この頃です。(佐々木)



(公財)尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の情報を随時発信します

ツイッター
尾瀬情報配信中

